

百花繚乱

発行者
加古川市立
山手中学校
2024年度
生徒会

「1.17山手のつどい」 ～阪神・淡路大震災から29年～

1月17日(水)の6校時に「1.17山手のつどい」を行いました。今年で29年。1月1日には石川県の能登半島で大きな地震が起きました。多くの命が犠牲になりました。もう一度、みんなが真剣に阪神・淡路大震災について考えていきたいと思います。

1995年1月17日午前5時46分、兵庫県淡路島の北部を震源地にマグニチュード7.3、震度7の直下型巨大地震が起きました。この地震による死者は6434人、負傷者は43792人、行方不明者は3人となりました。この地震は神戸市を中心として各地に壮大な被害を与えました。

私たち生徒会は、1月17日(水)に阪神・淡路大震災について学んできたことを、その

1月7日(日)に神戸の東遊園地で行われた希望の灯りの分灯式に行ってきました。少し時間があつたので、東遊園地に行くまでにたくさんの方の震災発生当時の被害を受けたところを見に行きました。

ハーバーランドでは崩れた港や被害の写真、復興までの年表などがあつました。



震災を知らない世代に語り継ぐこと、そしていつか起こる災害に對する心構え、備えをしておく意識を深めることを目的として「1.17山手のつどい」を行いました。



17山手のつどいを行いました。まず、阪神・淡路大震災がどのようなものだったかを皆さんに説明しました。そして、実際に神戸で被災された首野尾先生の貴重なお話を聞かせてもらいました。最後に生徒会長と副会長が1月7日(日)に分灯式でもらった「希望の灯り」を各クラスの評議員に分け、1分間の黙とうを捧げると共に「1.17山手の誓い」を宣言しました。短い時間ではありま



園では、5時46分で止まった時計、「しあわせ運べるト」(震災の被害で亡くなった方の名前が載っている)の歌詞が載っていた。また、5時46分で止まった時計、「しあわせ運べるト」(震災の被害で亡くなった方の名前が載っている)の歌詞が載っていた。

したが、厳かな雰囲気で行うことができたのではないのでしょうか。皆さん、このつどいで学んだこと、感じた事をぜひ、色々な人に話してもらい、阪神・淡路大震災というものを風化させないようにしていきたいです。

先生のお話を聞いて

先生のお話を聞き、改めて地震の恐ろしさと命の大切さを学ぶ事ができました。震災によって大切な家族や仲間を失う悲しさ、壊れていくいつもの景色、そして被災していく人々の心。私は、阪神・淡路大震災や今年の能登半島の地震のような大きな地震を体験したことはありません。しかし、そのような大きな自然災害はいつ、どこで起こるか分かりません。日頃からそれに備え、身近な建物や家の家具の確認、備蓄品の確認

17山手のつどいを行いました。まず、阪神・淡路大震災がどのようなものだったかを皆さんに説明しました。そして、実際に神戸で被災された首野尾先生の貴重なお話を聞かせてもらいました。最後に生徒会長と副会長が1月7日(日)に分灯式でもらった「希望の灯り」を各クラスの評議員に分け、1分間の黙とうを捧げると共に「1.17山手の誓い」を宣言しました。短い時間ではありま

分灯式がはじまると、この会の代表である藤本さんが「この忘れてはならないことをここで留めてほしい」と言われました。私達はこの震災で失われたものを忘れてはいけないし、この出来事を次の世代へと語り継いでいかなければいけないと改めて感じました。

「今、私たちにできること。それは、命ある私たちがその尊さを学び、未来の人々へ伝えていくこと。」

1.17 山手の誓い

震災から29年。その間、被災された方々の支えとなったもの。それは、やさしさ、思いやり、絆、仲間、この心のぬくもりを忘れず、大切にすること。

絶対にあの日のことを忘れない。そして伝えていく。今、生きていく私たちが使命として、今、生かされている命を大切に、精一杯生きることをここに刻みます。です。土台の石碑には「震災が奪ったもの、命、仕事、団欒、街、並み、思い出たつた1秒先が予見できない人間の限界、震災が残してくれたもの、やさしさ、思いやり、絆、仲間」



各クラスの分灯

神戸の東遊園地から持って帰った希望の灯りを各クラスの評議員に代表してもらい分灯しました。左の写真は東遊園地の希望の灯り



編集後記

私たち生徒会役員がスタートして一番初めの大きな行事でした。冬休みから準備してきて行きたかった。ひとつの行事で行うための準備、時間が多すぎたという事を学びました。